NIE実践報告

1．タイトル：☆環境問題を構造的に理解する　新聞活用のあり方を考える

2．学校名

長野県私立エクセラン高等学校

3．実践者名（代表者名）

竹内　久代

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

環境科学基礎（環境園芸コース学校設定科目）　21人

6．単元（本時の学習課題）名

地球・地域環境問題と今後の人間社会のありかた

7．目標（狙い）

①環境問題が自分たちに身近な社会問題であることを理解する
②環境問題がきわめて複雑で多面的な構造を持っていることを理解する

8．評価の視点

①記事や学習内容を根拠として、自分の言葉で環境問題についてまとめることができたか
②環境問題の現状に対して、自分にもできること（考え）を具体的にもつことができたか

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「地球環境問題・地域環境問題と人間生活の関係について」「新しい循環型社会のありかたを考える」
教科書教材・インターネット・実地調査・新聞活用　　など　合計50時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①自宅の新聞から、環境問題に関係すると思う記事を毎週2つ以上収集してくる（年間通して宿題）
②環境問題だと思う根拠となったキーワードを書き出し、調べる（2時間・あとは年間通して宿題）
③記事の分類：環境問題の分野ごと・原因や現状と対策・対策のレベルなどを軸に分類する（4時間）
④新聞のどの「面」にどのような環境問題の記事が載っているかを調べる（4時間）
⑤年間環境学習を通してわかったことを根拠に、グループごとに環境問題の特徴を新聞にまとめる（8時間）
⑥グループごとにまとめた新聞を発表する（2時間発表・あと展示）
（留意点）
・1年間の学習指導計画の中に流れを持って新聞活用②、③、④、⑤の時間を行った。
・教科書で学習していることがより具体的に理解できるように新聞活用を関連付けながら組み入れた。
・まず個人で環境問題の特徴を考えさせ、それをもとにグループで話し合いながらまとめさせた。
・環境問題というモンスターを特徴つける時に、具体的にどの新聞記事やどのような学習から考えたのか
その「根拠」をあげることを大切にした。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・教科書での学習だと知識として環境問題を「覚える」に重点が行くが、「自分たちの身近な社会問題」として認識が強まったという意見が多かった。
・保護者から「自分たちも一緒に環境問題を改めて考える機会になった」という意見あり【記事収集宿題】

12．成果と課題

①環境問題が具体的に身近な自分自身を含む社会問題として意識された
②現実に解決に向けて行われている努力や新しい技術などを知ることができた
③ひとつの技術などに関してのメリットデメリットの側面を知り、物事のとらえ方や考え方が多面的になった
④自分の考えを伝えるには「根拠」が大切で、その根拠として新聞は有効であることがわかった
⑤高校生という年齢で、グループごとの話し合いの媒体に新聞記事や新聞が有効に機能する